



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

新ユニット・リンク保険(有期型)『Life DO』『Life DO 80』

平成28年度 特別勘定決算のお知らせ

1. 運用環境(平成28年4月～平成29年3月)

【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数(TOPIX)は前年度末比+12.28%の1,512.60ポイント(前年度末1,347.20ポイント)となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票でEU(欧州連合)離脱派が勝利したことを受けて急落する局面があり、一時1,200ポイントを下回りました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて急落する局面がありましたが、米新政権の政策への期待などから市場は上昇し、1,500ポイントを超えました。1月に米新政権が発足すると、政策運営への不透明感と期待とが錯さうし、その後はもみ合う展開となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には0.065%(前年度末△0.050%)となりました。年度の前半は、4月から6月にかけて日銀の追加金融緩和期待への高まりなどを背景に、金利は低下基調で推移しました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて金利は更に低下し、△0.300%となる場面がありました。その後、7月から8月にかけて、財務相が40年国債増発の検討を表明したことなどから金利は上昇に転じ、9月には日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を発表したことを受けて、0%近辺で推移しました。年度の後半は、米新政権の政策への期待などから米国金利が上昇したことによって国内金利も上昇しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比+16.84%の20,663.22ドル(前年度末17,685.09ドル)となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面があり、一時17,000ドル近辺まで下落しましたが、買戻しの動きと堅調な経済指標から上昇に転じました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待などから市場は大幅に上昇しました。その後、米新政権の政策運営への不透明感から軟調に推移する場面もありましたが、3月には21,169.11ドルを付け、期を通じては上昇して終わりました。欧州株式市場は上昇しました。市場別の年間の騰落率は、独DAX指数+23.55%、英FTSE100指数+18.59%、仏CAC40指数+16.82%となりました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面がありましたが、年度の後半には、米国株式市場に連れて上昇しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には2.387%(前期末1.769%)となりました。年度の前半は、6月末に、英国の国民投票の結果などを受けて金利は急低下する局面があり、一時1.3%近辺まで低下しました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測、さらには、FOMC(連邦公開市場委員会)で1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に金利は上昇しました。その後は、金利上昇への期待と、新政権の政策運営への不透明感から揉み合いました。年度中に、FRB(米連邦準備制度理事会)による、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標引き上げが2回行われ、計0.500%引き上げの年0.750～1.000%となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には0.328%(前年度末0.153%)となりました。年度の前半は、EUが域内の景気・物価見通しを下方修正したこと、英国の国民投票の結果などから金利は低下し、△0.2%を下回りました。年度の後半は、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測などを背景に金利は上昇し、0.5%超となることもありましたが、ECB(欧州中央銀行)の政策金利は据え置かれ、年0.000%となっています。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、円高米ドル安となり、年度末には112.19円(前年度末112.68円)となりました。年度の前半は、米国の早期利上げ観測の後退、英国の国民投票の結果などを受けて円高で推移し、100円近辺の水準となることがありました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権への期待からドルが買われました。その後も、12月には堅調な米景気指標や、FOMCで1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に円安が進行し、118.18円を付けました。年度末に向けて米国の金利上昇への期待と米新政権の政策運営への不透明感から揉み合い、円高米ドル安で推移しました。ユーロ/円相場は、円高ユーロ安となり、期末には119.79円(前期末127.70円)となりました。期の前半は、英国の国民投票の結果などを受けて円高に推移し、一時111.22円となりました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、円、ユーロとも対ドルで下落しましたが、円の下落幅がユーロよりも大きかったことなどから、対ユーロで円安基調となりました。期末に向けて欧州における反EUの政治リスクへの懸念と欧州の金利上昇との間で揉み合いましたが、期を通じては円高ユーロ安となりました。

2. 特別勘定資産の内訳(平成28年度末)

(単位:百万円、%)

区 分	日本株投資力学 ファンド		日本株ジバング ファンド		日本株エゴリユー ションファンド		日本株インデックス 225ファンド		日本株インデックス TOPIX ファンド	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	37	4.3	59	4.4	57	4.2	178	4.4	43	4.3
株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	826	95.7	1,289	95.6	1,312	95.8	3,837	95.6	967	95.7
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	863	100.0	1,348	100.0	1,370	100.0	4,015	100.0	1,011	100.0

区 分	グローバル グロースファンド		グローバルソブリン 債券ファンド		グローバルリート ファンド		グローバルカレン シーファンド ^(注1)		マネーファンド ^(注2)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	27	4.1	17	4.2	36	4.4	0	4.1	20	6.2
株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	641	95.9	404	95.8	789	95.6	15	95.9	312	93.8
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	669	100.0	422	100.0	825	100.0	15	100.0	333	100.0

(注)金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

《グローバルソブリン債券ファンド》

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率(%)	△8.76	騰落率(%)	△2.66	騰落率(%)	22.43	騰落率(%)	24.43
	(注)騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成15年7月1日。							
運用方針	世界先進国の信用度の高いソブリン債を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。							
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA(適格機関投資家転売制限付)」 ^(注3) への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA(適格機関投資家転売制限付)」 ^(注3) への高位の投資比率を維持します。							

《グローバルリートファンド》

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率(%)	△7.29	騰落率(%)	19.29	騰落率(%)	73.81	騰落率(%)	99.77
	(注)騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年7月12日。							
運用方針	世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。							
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)」への高位の投資比率を維持します。							

《グローバルカレンシーファンド》^(注1)

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率(%)	△0.08	騰落率(%)	1.95	騰落率(%)	△8.85	騰落率(%)	△28.76
	(注)騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年7月12日。							
運用方針	短中期債を主な投資対象とし、通貨運用により超過収益を追求する投資信託に主に投資することにより、短期金利を上回る投資成果をあげることを目標とします。							
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「ニッポン・オフショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)」 ^(注4) への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「ニッポン・オフショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)」 ^(注4) への高位の投資比率を維持します。							

《マネーファンド》^(注2)

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率(%)	△0.20	騰落率(%)	△0.57	騰落率(%)	△0.88	騰落率(%)	△1.69
	(注)騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。							
運用方針	資金の一時的退避を目的に安定した運用を目指します。主に国内の公社債および短期金融商品を中心に投資することにより、安定した収益をあげることを目標とします。							
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)」への高位の投資比率を維持します。							

(注1)主な投資対象の投資信託が、純資産残高の減少に伴い繰上償還される可能性があることから、特別勘定「グローバルカレンシーファンド」を、平成29年6月30日をもって廃止することになりました。

(注2)「マネーファンド」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。ただし、低金利環境下(マイナス金利を含む)では、「マネーファンド」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

(注3)当ファンドの名称は、平成29年7月6日より、「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA(適格機関投資家転売制限付)」から「日興・世界ソブリン・ファンドVA(適格機関投資家転売制限付)」に変更予定です。

(注4)ファンドのトラスト名は平成28年7月25日付で、「メロン・オフショア・ファンズ」から「ニッポン・オフショア・ファンズ」に変更されました。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-933-399

受付時間 月～金 9:00～19:00

土 9:00～17:00(日・祝日、12/31～1/3を除く)

3. 特別勘定の運用収支状況（平成28年度末）

（単位：百万円）

区 分	日本株投資力学 ファンド	日本株ジバング ファンド	日本株エポリュー ションファンド	日本株インデックス 225ファンド	日本株インデックス TOPIXファンド
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	12	14	16	131	29
有価証券売却益	-	-	-	-	-
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	△ 21	127	56	381	95
為 替 差 益	-	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	△ 16	-	-	-	-
為 替 差 損	-	-	-	-	-
その他の費用	1	-	0	0	-
収 支 差 額	5	141	72	512	125

区 分	グローバル グロースファンド	グローバルソリン 債券ファンド	グローバルリート ファンド	グローバルカレン シーファンド ^(注1)	マネーファンド ^(注2)
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	14	5	97	0	0
有価証券売却益	-	-	-	-	-
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	84	△ 11	△ 33	0	25
為 替 差 益	-	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	1	0	-
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	-	35	125	0	25
為 替 差 損	-	-	-	-	-
その他の費用	-	2	3	-	-
収 支 差 額	98	△ 44	△ 67	0	0

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

4. 保有契約高（平成28年度末 /10勘定合計）

（単位：件、百万円）

項 目	件 数	金 額
新ユニット・リンク保険（有期型）	2,847	17,859
合 計	2,847	17,859

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

5. 特別勘定の運用状況

◀日本株投資力学ファンド▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	0.79	18.86	68.37
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。				
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興アクティブ・ダイナミクス（投資力学）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興アクティブ・ダイナミクス（投資力学）」への高位の投資比率を維持します。			

◀日本株ジバングファンド▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	10.92	33.76	98.70
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。				
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興ジャパンオープン（ジバング）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興ジャパンオープン（ジバング）」への高位の投資比率を維持します。			

◀日本株エポリューションファンド▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	5.24	24.32	84.33
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。				
運用方針	全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象 ^(※) とする投資信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標とします。 （※）国内株式を主要投資対象としますが、有望な投資対象が国内にない場合は、30%を上限にして海外株式に投資することがあります。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興エポリューション」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興エポリューション」への高位の投資比率を維持します。			

◀日本株インデックス225ファンド▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	13.46	30.07	93.24
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。				
運用方針	国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることが目標とします。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンド225」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンド225」への高位の投資比率を維持します。			

◀日本株インデックスTOPIXファンド▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	13.29	29.27	84.79
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。				
運用方針	国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることが目標とします。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンドTSP」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンドTSP」への高位の投資比率を維持します。			

◀グローバルグロースファンド▶

運用実績 (平成29年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	16.73	29.49	120.77
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成15年7月1日。				
運用方針	日本を含む世界主要先進国の株式の中から特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の確保を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体（MSCIワールド指数）の動きを上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「Gグロース」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「Gグロース」への高位の投資比率を維持します。			